

研究活動

中村本然

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌又は 発表学会等の名称	概 要	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
(編著) 1. 『定本弘法大師全集第2巻 ・秘密曼荼羅十住心論』・解説	共著	1993. 11. (平成5年11月)	密教文化研究所	空海の著述した『秘密曼荼羅十住心論』を共同編集した。担当したのは第6巻から第10巻であり、併せて解説を試みた。解説では、主としてこの論の成立問題を取り上げ、古来から唱えられている諸説に関して、文献による再検証を行った。特に六本宗書を朝廷に提出した各宗の人々のそれぞれの宗派における位置づけを「僧綱補任」を顧みることによって、この論の天長年間説に妥当性を確認することになった。		160頁
2. 『定本弘法大師全集第4巻 ・釈論指事』・解説	共著	1995. 2 (平成7年2月)	密教文化研究所	『釈論指事』の編集と解説を担当した。従来この書は備忘録と扱われてきている。しかしながら、空海が顕密の教判に用いる五重問答・撰不撰問答・四種大鏡等が取りあげられていないなどの問題が残る。『釈論指事』では、果海問答・因海問答に相当する部分が問答形式で論述されている。相当する部分が問答形式で論述されている。これは『秘密曼荼羅十住心論』第九巻の『釈摩訶衍論』解釈を意識した内容となっている。		32頁
(著書) 1. 『真言密教における安心』	単著	2003. 8 (平成15年8月)	高野山大学通信教育室	真言密教における安心について、安心の定義(安心という言葉、仏教・密教の文献にみる安心)・『真言宗安心全書』の性格と教学史上の安心論の展開・近代における安心論の検討・安心論の先駆的思想について考証考証を試みた。		248頁
2. 『真言教学の諸問題』付 参考資料	共著	2005. 3 (平成17年3月)	高野山大学通信教育室			347頁＋ 88頁
3. 『辯顕密二教論』を読む	単著	2008. 3 (平成20年3月)	高野山大学通信教育室			212頁
4. 『空海と高野山』	単著	2012. 3. 15 (平成24年3月15)	青春出版社			188頁
(学術論文) 1. 五重問答における 不二摩訶衍法について	単著	1982. 3 (昭和57年3月)	密教学会報 21 高野山大学	五重問答は『釈摩訶衍論』巻第五にみられる設問である。この問答中の第五重不二摩訶衍法は古来有問無答の設問として今日に至るまで幾多の疑難を生じてきている。不二摩訶衍法を無答とした造論主の真意について解明した。		2頁
2. 『釈摩訶衍論』における 三大義について	単著	1983. 3 (昭和58年3月)	密教学会報 22 高野山大学	『大乘起信論』の教理的特徴のひとつとして三大思想がある。所謂体大・相大・用大である。『釈摩訶衍論』中□		3頁

3. 『釈摩訶衍論』における□染淨の特異性について	单著	1983. 12 (昭和58年12月)	印度学仏教学研究□ 32-1	に展開する三大義の特異性について明らかにした。 『大乘起信論』では真如・無明に能熏・所熏の両義を認める。淨法である真如が何故に染相を生じ、また染因である無明に何故に淨用が起こるのかについて『大乘起信論』は淨法熏習・染法熏習によって説き明かす。『釈摩訶衍論』の染淨論は法藏の『大乘起信論義記』に影響をうけていることが明確であり、そのうえで独自の思想として成立している。	2頁
4. 『釈摩訶衍論』における不二摩訶衍法について－顕家と密家の註釈疏の比較を中心として－	单著	1983. 12 (昭和58年12月)	密教学研究 15	『釈摩訶衍論』所説の不二摩訶衍法について中国における註釈書(顕家)と日本の註釈書(密家)を比較検討した。顕家によるならば、不二摩訶衍法は最勝最尊にして一切の機根や教説を離れた存在とされる。ところが密家においては不二摩訶衍法は機根・教説を有する存在とされ、自性法身と同様に扱われる。いうまでもなく両者の相違には空海による『釈摩訶衍論』理解の質的改変が介在するのである。	16頁
5. 江南地方の仏教－鎮江・揚州・南京を尋ねて－	单著	1985. 3 (昭和60年3月)	『空海長安への道』 報告書	空海は密教の教えを求めて804年入唐する。都長安の往來の途上、当時隆盛であったと考えられる鎮江・揚州・南京地方の仏教にも触れる機会をもたれたことが容易に想像される。鎮江の金山寺・定慧寺、揚州にある鑑真ゆかりの大明寺、南京の棲霞寺・靈谷寺を中心として空海当時の仏教事情について論述した。	30頁
6. 『釈摩訶衍論』の成立問題について	单著	1986. 3 (昭和61年3月)	印度学仏教学研究 34-2	龍樹造・筏提摩多三蔵訳である『釈摩訶衍論』は弘治三年(401)の訳出とされるが、本論である『大乘起信論』よりもその成立年代が先行することなどの問題を含んでいる。経録など現存する文献を精査することによりこの問題の解決を試みた。	4頁
7. 『釈摩訶衍論』の成立に関する諸資料	单著	1987. 4 (昭和62年4月)	『仏教研究の諸問題』	『釈摩訶衍論』の成立問題について、Ⅰ中国における『釈論』の註疏について、Ⅱ中国仏教史上における『釈論』、Ⅲ日本に伝播してからの『釈論』、Ⅳ『釈論』の成立問題に関する諸説の四方面からの資料の整理と検討により現段階における『釈摩訶衍論』の成立事情について論じた。	32頁
8. 『釈摩訶衍論』に説かれる熏習論の特徴について	单著	1988. 2 (昭和63年2月)	高野山大学論叢 23	『釈摩訶衍論』は従来真諦訳『大乘起信論』の註釈書とされるが、熏習論が示される染淨相熏相生等の箇所において新訳である実又難陀訳をも参照していた内容が伺われる。また『大宗地玄文本論』を依用することにより本覺と無明の同一相統を明かす。因に『大乘起信論』は差別相統を唱える論とみなされる。『釈摩訶衍論』の熏習論の特徴としては不二摩訶衍法を一切の熏習から離れた存在とする点にある。	26頁
9. 体相用三大説考－『釈摩訶衍論』を中心として－	单著	1988. 10 (昭和63年10月)	密教文化 163 高野山大学	心真如門・心生滅門と体相用の三大の関係について、慧遠は『大乘起信論疏』において心真如門を体相二大とし、心生滅門を用大として解釈する。元曉は『起信論疏』において心真如門に体大、心生滅門に体相用の三大をみ	24頁

10. 『大宗地玄文本論』について—特に『釈摩訶衍論』との関係を中心として—	単著	1989. 3 (平成元年3月)	印度学仏教学研究 37-2	るが、『大乘起信論別記』では相用のみとする。法蔵は『大乘起信論義記』で三大を心生滅門所説とする。『釈摩訶衍論』も体相用を心生滅門として扱うが、その特異性は心真如門にも三大を認めるところにある。	4頁
11. 伝播到日本后的『釈摩訶衍論』	単著	1990. 8 (平成2年8月)	『空海研究』	『釈摩訶衍論』を支える経典として『大宗地玄文本論』がある。両者は思想的にも非常に酷似しており、本論である『大乘起信論』の序文の成立とも深い関わりがいわれる。現存する『大宗地玄文本論』には『釈摩訶衍論』中に引用される内容がみられないなどの問題が存在するが、高麗本・明本のうち高麗本が古いものと考えられており、『釈摩訶衍論』と併せて新羅仏教との繋がりが推測されることの証明を試みた。	7頁
12. 静遍の教学に関する一考察	単著	1990. 12 (平成2年12月)	印度学仏教学研究 39-1	大安寺戒明によって日本に将来された『釈摩訶衍論』は、淡海三船真人によって偽論としての宣告を受ける。この論を改めて評価するのが空海である。空海はこの論に基づきながら真言密教の教学を形成している。天台宗を開いた最澄は『守護国界章』を通じてこの論を非難する。それ以降大別すると真言宗では真論として、天台宗では偽論として今日まで至っている。この経緯について論述した。	4頁
13. 禅林寺静遍の提唱した教学について—特に教主論を中心として—	単著	1991. 2 (平成3年2月)	高野山大学論叢26	静遍の具有した教学の特徴を挙げるならば、A理智事三點説 B秘密念佛思想 C多法界説 D一乘経劫論 E本有思想 F大釈融合論 G舍利信仰 H弥勒信仰 I機根論 J七八九識論がある。これら特長ある十種の思想は静遍固有の思想であるとともに平安後期から鎌倉時代における真言教学のありようを呈していると考えられる。	42頁
14. 静遍僧都の信仰の一側面について	単著	1992. 3 (平成4年3月)	密教学会報 31 高野山大学	教主論としての三點説は内証の法である理と智の和合した人(事)を教主とする。佛身に配すると自性身・自受用身・他受用身となり、いづれも大日如来本有の三身とされる。道範に三點説を伝えた静遍を中心として、真言密教の教学史上に展開した三點説の考察、その思想的典拠の検証、更に三點説の源流やその後の変遷についての考証をおこなった。	10頁
15. 『釈摩訶衍論応教鈔』について (一)	単著	1992. 3 (平成4年3月)	密教学研究 24	静遍はその著『秘宗文義要』において時代に対応した真言密教観を提示している。鎌倉初頭、正しく末法の世とされるこの時代に適応する教えが真言密教であると主張する。すなわち障重根鈍の機根を密教の正機ととらえ直し、重罪をつくるものさえも利根に通じるとするにいたってたる。末法思想を是認する静遍の立場がここに伺える。	21頁

				土思想の反映を伺わせる記述として『釈摩訶衍論』所説の無上大覚尊を阿弥陀仏と特定している。また覚鑿の『釈摩訶衍論指事』等の思想的影響も多くみられることも指摘した。	
16. 道範の浄土観	单著	1994. 2 (平成6年2月)	高野山大学論叢29□	『貞応抄』において道範は浄土を清浄国土・淨佛国土という内容とは別に修行者を驚覚する所としての意味を付加している。驚覚する佛身は他受用報身とし、さらにそれを阿弥陀仏と規定する。また道範に思想的影響を与えた静遍の教説についてA本地自性身・能加持身・所加持身の三身について B 大日・阿弥陀・釈迦の関係について C 加持身並びに加持身説法について D 驚覚及び来迎についての四方面からの検討を試みた。	21頁
17. 真言教学入門	单著	1994. 3 (平成6年3月)	密教学会報 33	空海によって体系づけられた密教である真言密教を学ぶために必要とみられる基本的概念・真言教学を支えた人物とその思想・真言教学史上に展開した思想や信仰・教義上の諸問題等について、その内容に触れるとともに入門書的作用を果たすと思われる書籍の紹介をおこなった。	17頁
18. 真言密教	共著	1995. 11 (平成7年11月)	密教を知るためのブックガイド 法蔵館	空海は法身説法や成仏の遅速等によって密教の教判論を確立する。真言密教は時代とともに様々に変容しながらいまに至っている。教えを継承した宗徒の動向はもとより秘密念佛・両部神道・戒律復興運動など派生した思想や大釈同異論・本地身加持身説・三密具不具説等の教学上の諸問題について論述し、同時にその理解に有益である文献に触れた。	20頁
19. 『釈摩訶衍論私記』について	单著	1996. 9 (平成8年9月)	高野山大学論文集	『釈摩訶衍論私記』は信堅が後宇多上皇に『釈摩訶衍論』を進講しその内容を勅命に従いまとめたものである。報告では「総演大意」で論じられる問答即ち『釈摩訶衍論』を密論とすることに対する疑義がなされており、それらについての信堅の密教観があらわされている。具体的には密教の修行法である三密行や速疾頓成の思想の有無などが論点とされる。信堅は註疏のなかでも『釈摩訶衍論通玄鈔』を重用している。	28頁
20. 『大乘經典解説事典』	共著	1997. 5 (平成9年5月)	『大乘經典解説事典』 北辰堂	『大乘經典解説事典』の編纂に携わり、密教部の『陀羅尼集経』『秘密集会タントラ』『ヘーヴァジュラタントラ』『時輪タントラ』を担当した。解説にあたっては、經典の内容・經典の基本的資料・ハイライト箇所・經典に関する研究論文等の参考文献について論述した。	12頁
21. 東洋の生命観の現代における価値—特に密教における身体論を中心として—	单著	1998. 3 (平成10年3月)	高野山大学生命倫理研究会編	インド・中国・日本における身体について、密教思想を視点におきながら考証した。インド後期密教では脈管を駆使することによる神秘体験が説かれ、中国では五臓思想において身体論が扱われ、この五臓思想は日本密教の展開にも思想的影響を与える。両者の相異点は不老長生をいう道教に対して、密	22頁

22. 『顕密二教論手鏡鈔』について—特に『釈摩訶衍論』解釈に関する諸問題を中心として—	单著	1998. 5 (平成10年5月)	佐藤隆賢博士古稀記念論文集 佛教教理思想の研究	教は成仏を提唱するところにある。 静遍の『顕密二教論手鏡鈔』にある『釈摩訶衍論』をめぐる諸問題について検証した。本覚と無明の交渉における無明を根本無明・枝末無明いづれとみるか、五重問答の内容と配された各宗の教理の同一性の問題、離根離教とされる不二摩訶衍法の機根論について、華嚴の性海と『釈摩訶衍論』円円性海との同異性の問題、自性法身の言説と同一視される如義言説についてなど、その問題点と真言教学としての見解について解明した。	31頁
23. 道範記『初心頓覚鈔』について	单著	1998. 8 (平成10年8月)	山崎泰廣教授古稀記念論文集 密教と諸文化の交流	『初心頓覚鈔』は『秘宗文義要』の教説によりながら撰述されているが、著しく異なる点は教主論に関する新たな展開がみられる点である。つまり静遍の提唱した理智事の三點説から離れて大日如来と天照大神の融合が積極的に唱えられている。この著の撰述時期は特定されていないが、遍照金剛・大日如来・天照大神の同一性に論及した『大日経疏遍明鈔』の著された寛元三年(1245)前後或いはそれ以降としておきたい。	33頁
24. 日本の宗教にみられる生死観—「熊野参詣曼荼羅」にみる信仰を中心として—	单著	1999. 3 (平成11年3月)	高野山大学生命倫理研究会編	熊野とは本来祖霊のこもりなす場所という意であったが、『古事記』『日本書紀』によって特定の地名を示すことになる。熊野参詣曼荼羅は、花山上皇をはじめとして日本史を彩る著名人や説話によって描かれている。平安中期以降に多くの民衆によって信仰された熊野を文献資料による検討をおこなった。	31頁
25. 『声字実相義抄』(道範記)に説かれる如義言説について—その一、『釈摩訶衍論』と空海の著作にみる如義言説を中心として—	单著	1999. 12 (平成11年12月)	密教文化203	道範はこの著において、如義言説として真如如義・不二如義の両義を認めている。如義言説は『釈摩訶衍論』に説かれる言説であるが、論には道範のいう内容がみられない。また如義言説は真如門の言説とされており、不二摩訶衍法と同一視されていない。空海が自らの言説観を構築する過程で、如義言説と不二摩訶衍法を同質の概念と変容せしめ、真言教学における自性法身の言説と位置付けたのである。	20頁
26. 『釈摩訶衍論決疑破難会釈抄』について	单著	2000. 2 (平成12年2月)	高野山大学論叢35	『釈摩訶衍論決疑破難会釈抄』は、最澄や安然によって提出された『釈摩訶衍論』に関する疑問に対しての済暹の理解を示したものである。造論者問題をはじめとして『釈摩訶衍論』の真偽が問われる中、済暹は龍樹による真撰を主張し、その解決をはかっている。特に円仁の伝承による月忠造について、多方面にわたる考証を試みて否定していることもこの著の特徴といえよう。	23頁
27. 『声字実相義』について—その思想的背景を中心として—	单著	2000. 3 (平成12年3月)	密教学研究 32	『声字実相義』所説の十界・六塵に関しては未だその思想的解明がなされていない。報告においては、『釈摩訶衍論』との検討を行い、十蔵には『声字実相義』の十界に通じる概念が含まれ、業用自在無礙門には六塵に関する視点が見いだし得ることを論証した。	23頁
28. 『声字実相義抄』(道範	单著	2000. 12	仏教文化の諸相	道範の在世中に真言教学でいう如義	18頁

記)に説かれる如義言説について—その二、禅宗(宋朝禅)と真言宗の思想的交渉を中心として—		(平成12年12月)		言説が、宋朝禅の興隆に伴い、以心伝心と同一視されることがみられた。道範は如義言説に真如・不二の両義をいうことを通じて禅の不立文字等に相對峙した。如義言説に関する理解は道範に思想的影響を与えた静遍によって唱えられていた。	
29. 『釈摩訶衍論私記』について<II>	单著	2002. 10 (平成14年10月)	頼瑜僧正七百年御遠忌記念論集『新義真言教学の研究』	信堅によって著された『釈摩訶衍論私記』の撰述年については、嘉元の初め説・嘉元3年説・徳治の初め説・徳治3年説が諸文献によって唱えられていた。報告では正智院所蔵の『私記』の奥付けにより徳治3年(1308)であることの論証を行った。また信堅が『釈摩訶衍論』を解釈するに際して、慈行・通法・普観の註疏を参考にしながらも、空海の『釈摩訶衍論』理解に基づくことを指摘した。	28頁
30. 真言密教と曼荼羅	单著	2002. 10 (平成14年10月)	Hoedang and Esoteric Buddhism/2003. 9. 5 『悔堂思想と密教』 <大韓民国・悔堂学会>	両部不二思想を確立した空海の曼荼羅観の特徴と本円の『両部曼荼羅義記』を通して真言密教に展開した曼荼羅思想について検証した。空海は曼荼羅を絶離せる真理の世界を表詮するもの、密教の伝授・受法には不可欠のものとした。また五相成身観等の観法や諸尊の印契等結ぶことも曼荼羅であるとしている。さらに衆生心の開頭した秘密莊嚴心こそが曼荼羅であるとも論じている。本円の『義記』を軸に信日の『胎藏界曼荼羅鈔』『金剛界曼荼羅鈔』を通して真言教学の変遷を扱った。特に金剛界曼荼羅中に向上門・向下門を認めることは真言密教の特徴と考えられ、それは仁海によって提唱された。	84頁
31. 禅林寺静遍の草木非情成仏説について	单著	2003. 10 (平成15年10月)	日本仏教学会年報68	中国仏教において、湛然は『金剛鉾論』を著し非情仏性説を積極的に唱えることになる。非情仏性説は日本の天台教学にも影響を及ぼし、円珍は『理智一門集』等を通じて草木成仏を論じることになり、安然は『菩提心義抄』を撰述し草木発心成仏を提唱することになる。真言宗の開祖空海は『卍字義』等によって草木の成仏について言及している。草木成仏を直接に扱う書として『秘藏記』がある。静遍は『秘藏記抄』で、円珍、安然所説の草木成仏説とを比較検証することによって、真言密教の草木成仏を論じている。	24頁
32. 真言密教の修法と如意宝珠	单著	2005. 2 (平成17年2月)	高野山大学密教文化研究所紀要18		29頁
33. 真言密教における如意宝珠<信仰>	单著	2005. 5 (平成17年5月)	中世の仏教 青史出版		40頁
34. 「立義分」読誦信仰について—金剛界三十七尊との関わりを中心として—	单著	2006. 1/2/3 (平成18年 1-3月)	高野山時報3059. 3061. 3062. 3063. 3064		17頁
35. 真言密教と「生きる意味」	单著	2006. 3 (平成18年3月)	密教学研究38		55頁
36. <シンポジウム>「密教学の救済論的可能性」	共著	2006. 3 (平成18年3月)	密教学研究38		33頁
37. 道範記『菩提心論談義記』について	单著	2005. 11 (平成17年11月)	頼富本宏博士還暦記念論文集/マンダラ		36頁

			の諸相と文化・上	
38. 入定信仰と浄土信仰	单著	2006. 12 (平成18年12月)	高野山大学選書第4巻 高野山の伝統と未来	18頁
39. 『金剛頂経開題』にみる 思想的特徴について	单著	2007. 2 (平成19年2月)	高野山大学密教文化 研究所紀要 2 0	18頁
40. 『釈摩訶衍論』の五重 問答について	单著	2007. 3 (平成19年3月)	智山学報 5 6	30頁
41. 弘法大師の入定と如意 宝珠	单著	2007. 6 (平成19年6月)	高野山時報3105	2頁
42. 高野山浄土信仰と如意 宝珠	单著	2007. 6 (平成19年6月)	高野山時報3106	1頁
43. 道範撰『金剛頂経開題 勘註』について	单著	2008. 2 (平成20年2月)	高野山大学密教文化 研究所紀要 2 1	24頁
44. 『選択本願念仏集』に説か れる五逆重罪について一特に 真言教学との比較を通して一	单著	2008. 12 (平成20年12月)	印度学仏教学研究 第57巻第 1 号	8 頁
45. 真言密教における 機根について	单著	2008. 1 (平成20年1月)	『空海研究』 第 4 空海研究会	2 2 頁
46. 真言教学における生死観 一特に道範の周辺を 中心として一	单著	2010. 2 (平成22年2月)	高野山大学密教文化 研究所紀要 2 3	31頁
47. 真言教学における生死観 一『宗骨抄』を中心として一	单著	2010. 9 (平成22年9月)	日本仏教学会年報 第75号	16頁
48. 『常盤井殿記録』について	单著	2011. 3. 1 (平成23年3月)	高野山大学論叢 第46号	266頁
49. 弘法大師空海の『入楞伽経』 理解一『秘密曼荼羅教付法伝』 を中心として一	单著	2011. 3 (平成23年3月)	日本密教学会	27頁
50. 『常盤井殿記録』にみる真 言教学について一特に道順の教 説を中心として一	单著	2011. 12	日本印度学仏教学会 第60巻第 1 号	8頁
(その他)				
1. 空海長安への道 追体験記 (上)		1984. 4 (昭和59年4月)	高野山教報 846	
2. 空海長安への道 追体験記 (下)		1984. 6 (昭和59年6月)	高野山教報 848	

3. 江南地方の仏教と大師		1984. 6 (昭和59年6月)	『毎日グラフ』別冊		
4. 追体験日誌		1985. 3 (昭和60年3月)	『空海長安への道』 報告書		
5. 空海入唐道の風景 (1) (2) (3) (4)		1986. 11 (昭和61年11月)	中外日報 23579・ 23580・23581・ 23582		
6. 書評・那須政隆著 『釈摩 訶衍論講義』		1994. 3 (平成6年3月)	密教学研究 26		8頁
7. 静慈圓著『空海密教 の源 流と展開』		1995. 9 (平成7年9月)	高野山時報 2732	書籍紹介	2頁
8. 書評 福田亮成著 『即身 成佛義』		1997. 3 (平成9年3月)	密教学研究 29		6頁
9. 『大乘經典解説事典』	共著	1997. 5 (平成9年5月)	『大乘經典解説事 典』北辰堂		12頁
10. 書評新刊紹介 加藤精一著『弘法大師の 人間学』		1998. 3 (平成10年3月)	密教学研究 30		10頁
11. 『仏典入門事典』	共著	2001. 6 (平成13年6月)	『仏典入門事典』 永田文昌堂 (2頁)		
12. 国際学会に参加して		2003. 1 (平成15年1月)	高野山時報 2963		2頁
13. 〈随想〉ゆく河の流れ は絶えずして		2009. 2 (平成21年2月)	密教学会報第46/ 47号		7頁
14. わかりやすいお大師さまの おしえ		2009. 8. 26 (平成21年8月2日)	高野山大学 夏季セミナー		4頁
15. 大日如来のいのち		2009. 9. 17 (平成21年9月1日)	週刊仏教タイムス 第2369号		1頁
16. 講義の風景—現代における 安心の構築を意識して—		2010. 10. 15 (平成22年10月 15日)	高野山教報第1478号		1頁
17. 真言密教の安心と現代 —大山公淳先生の唱えた「同行 二人安心」—		2011. 1. 1 (平成23年1月 1日)	六大新報新春大特集号		6頁
18. 書籍紹介 『山崎泰宏講伝 伝授録』		2011. 5. 21 (平成23年5月 21日)	高野山時報 3230		2頁
19. 真言密教の安心と現代 —榎尾祥雲先生の唱えた「秘密 莊嚴安心」と「遍照金剛」の標 語		2012. 1. 1 (平成24年1月 1日)	六大新報社新春特集号		6頁
20. 自己紹介		2012. 3. 1 (平成24年3月1日)	宗報No185(高野山真言宗)		1頁
21. お大師様のことば		2012. 6. 30 (平成24年6月30日)	高野山大学学報第66号		1頁
22. 『続真言宗全書』刊行に際し て		2012. 6. 10 (平成24年6月6日)	『続真言宗全書』DVD		1頁
23. インタビュー：空海の真言 密教はすべて安心の教え		2012. 9. 10 (平成24年9月10日)	『たいまつ通信』63号		1頁
24. 「宗教と科学の対話」事業		2012. 11. 5	『六大新報』第4292号		

<p>を推進するにあたって</p> <p>25. 真言密教の安心と現代 —長谷宝秀先生の唱えた凡聖 不二観に基づく三句(因・根・ 究竟)安心説—</p> <p>26. 新刊紹介 山崎泰広著 『宇宙からのメッセージ 大日 経』は語る</p> <p>27. 「宗教と科学の対話」事業 をはじめるにあたって</p> <p>28. 〈特別講演〉「曼荼羅の心 と即身成仏について」</p> <p>29. インタビュー：「東日本 大震災復興支援活動から学ぶ 連続講座」</p> <p>30. 生命のメッセージ対談 21世紀を切りひらく信仰と科学 の調和</p> <p>31. 真言密教の安心と現代 —上田天瑞先生の実践宗学に 基づく安心説について—</p>	<p>(平成24年11月5日)</p> <p>2013. 1. 1 (平成25年1月1日)</p> <p>2013. 3. 1 (平成25年3月1日)</p> <p>2013. 4. 8 (平成25年4月8日)</p> <p>2013. 5. 10 (平成25年5月10日)</p> <p>2013. 5. 25 (平成25年5月25日)</p> <p>2013. 10. 1 (平成25年10月1日)</p> <p>2014. 1. 1 (平成26年1月1日)</p>	<p>『六大新報新春特集号』</p> <p>『高野山時報』第3285号</p> <p>THE ZEN 60号</p> <p>『たいまつ通信』67号</p> <p>『六大新報』第4309号</p> <p>『致知』11月号</p> <p>『六大新報新春特集号』</p>		
--	---	--	--	--

	スカイパーフェクトTV心の時間講師・
	高等教育機関コンソーシアム和歌山共同公開講座「曼
	荼羅の心」<2003・5和歌山・吉備町>・
	特定非営利活動法人JUON(樹恩)主催「空海からの提言
	<意識改革>」<2003・6香川県東かがわ市>・
	夏季生涯学習講座「真言密教における安心」<2003・8
	高野山大学>
平成16年度(2004年)	同和研究会・学芸員課程担当者会議・図書館協議会・
	図書選択委員・伝統教学復興プロジェクト委員・
	大学院の授業展開に関する小委員会委員
平成17年度(2005年)	同和研究会・学芸員課程担当者会議・図書館協議会・
	図書選択委員・伝統教学復興プロジェクト委員・
	京都宗教系大学院連合評議員
平成18年度(2006年)	同和研究会・学芸員課程担当者会議・図書館協議会・
	図書選択委員・FD委員会委員長・
	伝統教学復興プロジェクト・京都宗教系大学院連合評
	議員
平成19年度(2007年)	同和研究会・学芸員課程担当者会議・図書館協議会・
	図書選択委員・FD委員会委員長・通信教育室長・
	大学院委員会・
	学生部協議会委員・伝統教学復興プロジェクト
平成20年度(2008年)	通信教育室長・学生部協議会委員・大学院委員会・
	密教文化研究所兼任研究員・伝統教学復興プロジェクト
平成21年度(2009年)	密教学科主任・別科主事・教務委員会・拡大学生部協議会
	伝統教学復興プロジェクト委員・新学科編成協議会
	密教文化研究所協議会・密教文化研究所兼任研究員
平成22年度(2010年)	密教学科主任・別科主事・教務委員会・拡大学生部協議会
	伝統教学復興プロジェクト委員
	密教文化研究所協議会・密教文化研究所兼任研究員
	通信教育室長・宗教教育担当・大学院委員会
平成23年度(2011年)	密教文化研究所所長・別科主事・自己点検・評価運営委員
	会・内部質保証委員会・教員資格審査委員会・密教文化
	研究所協議会・薬物等乱用防止対策委員会・
平成24年度(2012年)	密教文化研究所所長・自己点検・評価運営委員会・内部質
	保証委員会・密教文化研究所協議会・大藏会・薬物等乱用
	防止対策委員会
平成25年度(2013年)	密教文化研究所所長、自己点検・評価運営委員会、内部質
	保証委員会・密教文化研究所協議会・大藏会・薬物等乱用
	防止対策委員会

平成26年度(2014年)	密教文化研究所所長、自己点検・評価運営委員会、内部質
	保証委員会・密教文化研究所協議会・大藏会・薬物等乱用
	防災対策委員会

所属	文学部	職名	教授	氏名	中村本然	大学院の授業担当の有無 (有)	
教育活動							
教育上の主な業績	年月日	概要					
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2002. 4 (平成14年4月)	空海の著作<『声字実相義』『吽字義』『秘蔵宝鑰』等>・密教関係の論書『菩提心論』・『釈摩訶衍論』などの講義に際しては、①原文②書き下し③引用文献④現代語訳を一覧できるノートを作成し受講生に配布して講義している。					
	2002. 4 (平成14年4月)	歴史を概観する講義<日本密教史概説>に際しては、テキスト(例『密教の歴史』松長有慶著)に使用されたとみられる文献・資料や新たなる研究成果である論文等を配布しての講義をしている。					
	2002. 1 (平成14年1月)	ビデオ等の活用<曼荼羅・仏像・寺院・神社等の講義>現地研修<講義を補完する意味も含めて、博物館・図書館等で文献資料に触れる。文献にある寺院・神社等を尋ね調査する。密教の儀式を拝観させる。>					
	2002. 1 (平成14年1月)	体験学習<例、中国研修旅行・空海に関する歴史的文物を実際に眼にする/歴史街道や空海の歩いた道を実際に歩いてみる(熊野詣・高野街道・四国遍路)>					
2. 作成した教科書、 教材、参考書	1995. 11. 20 (平成7年11月)	『密教を知るためのブックガイド』<密教に入門するための案内書の役割をはたしながら、卒業論文を作成するための手引書を刊行メンバーとして加わる>					
	1993. 11. 21 (平成5年11月21日)	『定本弘法大師全集』<空海の研究・講義のためのテキスト作成・刊行スタッフとして事業に参画>					
	1995. 2. 21 (平成7年2月21日)	教材用としてのノート作成。空海の著作<『声字実相』『秘蔵宝鑰』等>・密教関係の論書『菩提心論』・『釈摩訶衍論』などの講義に際しては、①原文②書き下し③引用文献④現代語訳を一覧できるノートを作成。					
		教材としての文献・資料の作成。歴史を概観する講義<日本密教史概説>に際しては、テキスト(例『密教の歴史』松長有慶著)に使用されたとみられる文献・資料や新たなる研究成果である論文等を配布。					
	2003. 8 (平成15年8月)	『真言密教における安心論』<単著>					
	2004. 4 (平成16年4月)	『密教の安心』<単著>					
	2005. 3 (平成17年3月)	『真言教学の諸問題』(別冊)付<単著>					
2008. 3 (平成20年3月)	『辯頭密二教論』を読む<単著>						

<p>3. 教育方法・教育実践 に関する発表、講演等</p>	<p>2009. 11. 10 (平成21年11月10日)</p> <p>2010. 1. 16 (平成22年1月16日)</p> <p>2010. 7. 3 (平成22年7月3日)</p> <p>2010. 11. 26 <予定> (平成22年11月26日)</p> <p>2011. 5. 24 (平成23年5月24日)</p> <p>2011. 7. 31 (平成23年7月31日)</p>	<p>「密教と現代(真言密教の安心論)」真言宗尾道真生会</p> <p>「一人ひとりの尊さをみつめて」高野山大学いのちのセミナー</p> <p>「曼荼羅の心を開く」高野山大学生涯学習講座</p> <p>「弘法大師教学を現代に生かす」真言宗真和会(福岡)</p> <p>「弘法大師の思想と現代」真言宗御室青年教師会</p> <p>「弘法大師と曼荼羅の心〈秘密莊嚴心〉」 高野山大学夏季セミナー</p>
<p>4. その他教育活動上 特記すべき事項</p>	<p>1983. 4～1989. 3. 31 (昭和58年4月- 平成元年3月31日)</p> <p>1989. 4～2010. 3. 31 (平成元年4月- 平成22年3月31日)</p> <p>1984. 7～ (昭和59年7月～)</p> <p>2003. 4～2009. 3 (平成15年8月- 平成21年3月)</p>	<p>高野山専修学院非常勤講師</p> <p>高野山尼僧学院非常勤講師</p> <p>高野山大学加行監督</p> <p>高野山金剛峯寺布教研究所所員</p>